機械遺産

Mechanical Engineering Heritage

2011年度機械遺産一覧

44. Landmark.
青函連絡船及び可動橋…P02

45. Collection.
幹線用電気機関車ED15形…P03

46. Collection.
岡谷蚕糸博物館の繰糸機群…P04

47. Collection.
豊田式汽力織機…P05

48. Collection.
油圧ショベルUH03…P06

49. Collection.
ファスナーチェーンマシン(YKK-CM6)…P07

50. Collection.
多能式自動券売機…P08

一般社団法人 日本機械学会
The Japan Society of Mechanical Engineers

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35番地 信濃町煉瓦館5階
TEL:03-5360-3500(代表) FAX:03-5360-3508

青函連絡船及び可動橋

（①船舶：青森側／②船舶：北海道側／③可動橋：青森側／④可動橋：北海道側）

Seikan Train Ferry and Moving Rail Bridge

摩周丸

八甲田丸と可動橋

青函鉄道連絡船は、1908（明治41）年に帝國鉄道庁によって運航が開始され、1988（昭和63）年の青函トンネルの開通までの80年間、北海道と本州を結ぶ物流の大動脈としての役割を担った。

車輌航送は1925（大正14）年より本格的に開始され、船舶への鉄道車両搭載のため可動橋が青森・函館両港に設置された。両港に保存されている可動橋を支える主塔の部分はこの最初期からのものである。また、青森側に保存されている主・副橋桁は、車両通過速度を向上させるよう1954（昭和29）年に改造されたものである。

船舶は、青森側に「八甲田丸」（青森側からの最終運航船）、函館側に「摩周丸」が保存されている。前者は55隻の歴代配属青函連絡船中最長の23年7ヶ月の就航期間を記録している。資料としては、各船の航海日誌、多数の青函連絡船の建造経過写真、航路運航記録、設計図、取扱説明書、事故報告書、海難審判記録などが摩周丸に網羅的に保存されている。

これら資料は、国内連絡船航路最大の運航回数72万回、輸送人員1億6千万人、貨物2億5千万トンを輸送した青函航路の栄枯盛衰の記録であるとともに、輸送の安定と効率化に尽した技術者たちの記念碑である。

《写真提供：青森県、函館市青函連絡船記念館摩周丸》

青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸

公開（事前予約不要）

- 開館時間：4/1～10/31 9:00～19:00（入館は18:00まで）11/1～3/31 9:00～17:00（入館は16:30まで）八甲田丸外観と可動橋は見学自由
- 利用料：大人500円 高校生300円 中学生300円 小学生100円
- 利用できない日：①11/1～3/31の期間：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）②12/31および1/1③3月第2週の月曜日から金曜日まで
- 住所：〒038-0012　青森県青森市柳川一丁目112番15地先
- 電話番号：017-735-8150
- HPアドレス：http://www7.ocn.ne.jp/~hakkouda/
- 交通機関：JR青森駅から徒歩5分

函館市青函連絡船記念館摩周丸

公開（事前予約不要）

- 開館時間：8:30～18:00（入館は17:00まで）11/1～3/31 9:00～17:00（入館は16:00まで）摩周丸外観と可動橋は見学自由
- 利用料：大人500円　子供250円
- 利用できない日：無休（ただし、臨時休館有り）
- 住所：〒040-0063　北海道函館市若松町12番地先
- 電話番号（公開施設）：0138-27-2500
- HPアドレス：http://www.mashumaru.com/
- 交通機関：JR函館駅から徒歩4分

［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第45号
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.45］

幹線用電気機関車ED15形

Type ED15 Electric Locomotive

電気機関車ED15形は、1924（大正13）年に製造された幹線用直流電気機関車である。

この機関車は、日立製作所の創業者、小平浪平（おだいらなみへい）が鉄道省の東海道線の電化計画に伴う事業として、全社の技術力を挙げて設計開発に取り組んだ純国産第1号の貨物・旅客用電気機関車である。電気部品は日立工場（茨城県）で、機械部品は笠戸工場（山口県）で設計・製造された。車両は運転室・機関士席も広く、長さ13.3メートル、重量59トン、最高速度65km/h、直流1500ボルト、主電動機4台による820キロワットの定格出力は当時の輸入機関車に匹敵するパワーを有していた。

この機関車は1924（大正13）年に試運転が行われ、その様子は米国の新聞に紹介されるなど技術の高さが海外でも注目された。その後35年余り、東海道線や中央線で使用され、八王子機関区を最後に1960（昭和35）年に廃車された。この機関車は、3両製作されたうちの唯一の現存車両であり、鉄道の電化に伴い、蒸気機関車に代わる国産電気機関車の原点に位置する。現在まで長年に亘って開発・改良されてきた鉄道輸送における電化技術の上で極めて重要な遺産である。

《写真提供：株式会社日立製作所》

株式会社 日立製作所水戸事業所　　非公開（原則）

●住所：〒312-8506　茨城県ひたちなか市市毛1070
●電話番号：029-276-6636

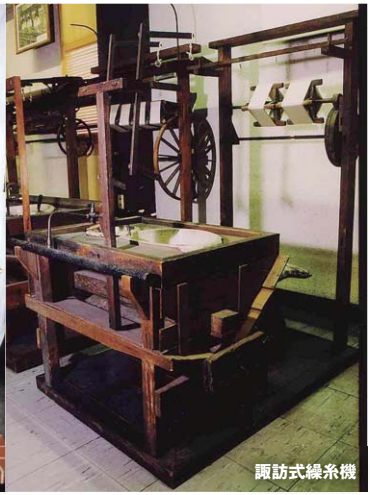
［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第46号
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.46］

岡谷蚕糸博物館の繰糸機群

（フランス式繰糸機、諏訪式繰糸機、4条繰り諏訪式繰糸機、6条繰り諏訪式繰糸機、イタリア式繰糸機、御法川式多条繰糸機、織田式多条繰糸機、増澤式多条繰糸機）

Silk reeling machines of the Okaya Silk Museum

フランス式繰糸機


諏訪式繰糸機

岡谷蚕糸（さんし）博物館には明治初期のフランス式繰糸（そうし）機、諏訪式繰糸機など8台の製糸機械が保存されている。

フランス式繰糸機は、1872（明治5）年に操業を開始した官営富岡製糸場で使われていたもので、全300台（釜）の内の2台（№151、152）であり、お雇い外国人のポール・ブリューナがフランスから輸入したもので、現存最古の製糸機械である。

諏訪式繰糸機は、諏訪郡平野村（現岡谷市）の中山社の武居代次郎らが1882（明治15）年頃にフランス式とイタリア式の技術を融合し開発したものである。この繰糸機は、明治期に全国に普及し、その過程で緒数（糸口）を増やすなど生産性を高める改良が加えられた。

この博物館には、さらに生産性を高めるために昭和に入り開発された御法川（みのりかわ）式、織田式、増澤式の3台の多条式繰糸機も保存されている。

これらは、明治以降の日本の近代産業の発展に大きく貢献した機械であり、製糸技術の遺産である。

《写真提供：市立岡谷蚕糸博物館》

市立岡谷蚕糸博物館　　公開（事前予約不要）

- 開館時間：9:00～17:00
- 利用料：大人350円　子供150円
- 利用できない日：毎週月曜日、祝日の翌日、12月29日～1月3日
- 住所：〒394-0028　長野県岡谷市本町4-1-39
- 電話番号（公開施設）：0266-22-5854
- HPアドレス：http://www.okaya-museum.jp/
- 交通機関：JR岡谷駅から徒歩15分
  長野自動車道岡谷I.C. から車で5分

［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第47号
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.47］

豊田式汽力織機

Toyoda Power Loom

この織機は、豊田佐吉が1897（明治30）年に発明し、翌年に特許を取得した綿布用小幅動力織機である。動力源としては蒸気機関の他に電動機などが使用された。軸や歯車など主要な可動部品の材料は鉄、フレームは木で作られた木鉄混製の安価で堅牢な織機である。よこ糸切断自動停止装置、たて糸送り出し装置、巻き取り装置などの自動化装置を装備して、織物の品質向上と従来の手織り機（高機（たかばた））の20倍の生産性を実現した。さらに外国製動力織機の1/20という価格であったため、全国に広く普及して日本の綿織物業を大きく発展させることになった。国産技術の優秀さを示す遺産であるとともに、日本の繊維機械技術の発展に貢献した機械である。

当機は国産動力織機で現存最古のものであり、1899（明治32）年に製造され、愛知県の織布工場で昭和40年代まで使用されていた。現在は産業技術記念館に保存され、動態展示中である。

《写真提供：トヨタテクノミュージアム　産業技術記念館》

トヨタテクノミュージアム　産業技術記念館　公開（事前予約不要）

- 開館時間：9:30～17:00（入場受付は16:30まで）
- 利用料：大人500円　中高生300円　小学生200円　65歳以上無料
- 利用できない日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
- 住所：〒451-0051　愛知県名古屋市西区則武新町4-1-35
- 電話番号：052-551-6115
- HPアドレス：http://www.tcmit.org/index.html
- 交通機関：名鉄名古屋本線「栄生駅」下車、徒歩3分

［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第48号
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.48］

油圧ショベル UH03

Hydraulic Excavator UH03

このショベルは、1965（昭和40）年日立製作所（現日立建機）において製造された純国産の油圧ショベルUH03である。それまでの油圧ショベルは欧州との技術提携で導入された1ポンプ1バルブ方式が主流であった。これに対し、同社では2ポンプ2バルブという日本独自の方式を開発した。これにより、ブームの持ち上げと旋回の複合動作が可能となり、作業性を飛躍的に向上させた。さらにこの方式は、後に多くのメーカが採用することとなった。

仕様は、全高2.4メートル、全幅2.49メートル、総重量9トン、標準バケット容量0.35立方メートル、エンジンの出力は58馬力である。

UH03は、1965（昭和40）年から1968（昭和43）年まで製造され、東名高速道路の建設など、同時期の日本の高度経済成長期における土木・建築の作業で活躍した。現在、日本で開発した油圧ショベルは、世界シェアの約7割を占めるまでに成長している。2011（平成23）年3月に発生した東日本大震災の復興においても、油圧ショベルは重要な役割を果たしている。

本機は、わが国の油圧ショベルの原点に位置する重要な遺産である。

《写真提供：日立建機株式会社》

日立建機株式会社　土浦工場　　公開（事前予約）

- 開館時間：9:00～16:00
- 利用料：無料
- 利用できない日：土、日、祝祭日、年末年始、お盆　等工場休日
- 住所：〒315-0013　茨城県土浦市神立町650
- 電話番号（公開施設）：029-832-7150
- HPアドレス：http://www.hitachi-kenki.co.jp/
- 交通機関：JR常磐線神立駅から徒歩15分

［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第49号
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.49］

ファスナーチェーンマシン（YKK-CM6）

Zipper chain machine（YKK-CM6）

CM6型で作られたファスナー

YKKの創業者　吉田忠雄は、第二次世界大戦後、品質の良い外国製ファスナーを見て発奮し、富山県において吉田工業（当時）を設立し、国産ファスナーの製造を本格化した。

同社では、1950（昭和25）年に導入した米国製ファスナー製造機械（チェーンマシン）の生産性向上、品質向上を追求し続け、1953（昭和28）年、かみ合う部品（務歯（むし））を間欠的に植付ける機構を自社開発し改良機に搭載した。この間欠植付け機構部分は、当時画期的な発明であり、YKKの特許第一号となった。その後、平角線からのパンチとダイによる務歯打ち抜き、および間欠植付け機構を備えた完全自社開発のCM3型機が1959（昭和34）年に開発された。本機はCM3型の後継機で、1964（昭和39）年から製造を開始した当時世界最高水準の性能を有したCM6型機のうちの一台（1981（昭和56）年製）である。

これらの創意工夫により、材料から製品まで一貫して製造されたファスナーは、高品質で低価格となり、現代生活の中で服飾に限らず、自動車や新幹線のシート、トンネルの防水や宇宙服の気密保持に至るまで、あらゆる分野で使用されており、国民の生活向上と産業の発展に大きく貢献している。

《写真提供：YKK株式会社》

YKKセンターパーク　公開（事前予約不要）

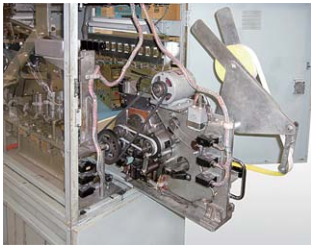
- 開館時間：9:00～16:00（入場は15:30まで）
- 利用料：無料
- 利用できない日：11月～3月の土日及び祝日、年末年始
  ＊その他都合により休園する場合があるので、予めご確認下さい。
- 住所：〒938-8601　富山県黒部市吉田200
- 電話番号（公開施設）：0765-54-8181
- HPアドレス：http://www.ykkcenterpark.jp
- 交通機関：JR黒部駅からタクシーで10分、JR生地駅から徒歩15分

［日本機械学会「機械遺産」　機械遺産　第50号
MECHANICAL ENGINEERING HERITAGE NO.50］

多能式自動券売機

Ticket Vending Machine

万国博中央口駅（1970年）



世界初の多能式自動券売機は、髙見澤電機製作所自販機事業部（現高見沢サイバネティックス）にて、1962（昭和37）年に開発された。多能式とは、印刷機構を備えて、発売のたびにロール紙に運賃等を印刷する方式であり、この方式により複数券種の乗車券が発売できるようになった。

本機は、世界初の多能式技術をベースに量産化されたモデルで、現存し稼動する最古の多能式自動券売機である。制御部は、およそ250個のリレーにより構成されている。また、独創的な機械式硬貨処理機構により、各種硬貨の選別・蓄積・釣銭払出し機能だけでなく、さらに擬似硬貨検出機能も備えている。

1969（昭和44）年製の本機は、1970（昭和45）年に万国博覧会場前の北大阪急行電鉄万国博中央口駅に設置された。その後、浴場の入場券発売機として使用されていたが、再び同社に引き取られ、当時と同様に稼動できる状態で保存・展示されている。

現在、多能式自動券売機は鉄道に限らず多方面で活躍している。本機はその歴史的意義とともに、その後の鉄道各社の駅等の自動券売機として普及していく契機となったもので、機械技術の独創性と優秀さを示す遺産である。

《写真提供：株式会社高見沢サイバネティックス》

株式会社 高見沢サイバネティックス　長野第3工場（技術棟）　公開（事前予約）

- 開館時間：10:00～16:00　●利用料：無料
- 利用できない日：土、日、祝祭日、年末年始、お盆　など
- 住所：〒384-0412　長野県佐久市田口5662
- 電話番号（公開施設）：0267-82-7331
- HPアドレス：http://www.tacy.co.jp
- 交通機関：JR小海線（八ヶ岳高原線）中込駅からタクシーで約5分
  長野新幹線佐久平駅からタクシーで約15分
  （最寄り駅である太田部駅と龍岡城駅は無人駅です。）

「機械遺産」(2007～2011)所在地一覧 1-50

No.	分類	遺産名(＊：未公開)	所在地	電　話	連絡先
1	S	小菅修船場跡の曳揚げ装置	長崎県長崎市小菅町1	095-822-3988	マリンセンター小菅
2	L	熊本大学の旧機械実験工場と 文化財工作機械群	熊本県熊本市黒髪2-39-1	096-344-2111	熊本大学
3	C	足踏旋盤(明治8(1875)年伊藤嘉平治作)	愛知県犬山市内山1	0568-67-0314	博物館明治村
4	C	陸用蒸気タービン	長崎県長崎市飽の浦町1-1	095-828-4134	三菱重工業㈱長崎造船所 史料館
5	C	10A型ロータリエンジン	広島県安芸郡府中町新地3-1	082-252-5050	マツダミュージアム
6	C	ホンダCVCCエンジン	栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1	0285-64-0341	ホンダコレクションホール
7	C	民間航空機用FJR710ジェットエンジン	東京都調布市深大寺東町7-44-1	0422-40-3961	(独)宇宙航空研究開発機構
8	C	ヤンマー小形横形 水冷ディーゼルエンジンHB形＊	滋賀県長浜市川道町1009-2	0749-72-5330	ヤンマー(株)滋賀研修所
9	C	あのくち式渦巻きポンプ	愛知県犬山市内山1	0568-67-0314	博物館明治村
10	C	高周波発電機	愛知県刈谷市高須町石山2-1	0566-29-4330	依佐美送信所記念館
11	C	東海道新幹線0系電動客車	大阪府大阪市港区波除3(弁天町駅前)	06-6581-5771	交通科学博物館
12	C	230形233号タンク式蒸気機関車	大阪府大阪市港区波除3(弁天町駅前)	06-6581-5771	交通科学博物館
13	C	旅客機YS11＊	東京都大田区羽田空港3-5-4	03-5777-8600	国立科学博物館
14	C	カブ号F型(ホンダ自転車用補助エンジン)	栃木県芳賀郡茂木町桧山120-1	0285-64-0341	ホンダコレクションホール
15	C	麦わら帽子製造用環縫ミシン	愛知県名古屋市瑞穂区塩入町5-15	052-824-2227	プラザー コミュニケーション スペース
16	C	無停止杼換式豊田自動織機(G型)第1号機	愛知県名古屋市西区則武新町4-1-35	052-551-6115	トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館
17	C	活版印刷機	東京都中央区入船2-9-2	03-3551-7595	ミズノ・プリンティング・ミュージアム
18	C	コマツブルドーザーG40(小松1型均土機)	静岡県伊豆市徳永697	0558-83-2930	コマツテクノセンタ
19	C	オリンパスガストロカメラGT-I	東京都八王子市石川町2951	042-642-2111	瑞古洞 オリンパス技術歴史館
20	C	バックトン万能試験機＊	兵庫県高砂市荒井町新浜2-1-1	<未公開>	三菱重工(株)高砂研究所
21	C	万能製図機械MUTOH『ドラフター MH-I』	東京都品川区西五反田7-21-1 第5TOCビル	03-5740-8211	MUTOHショールーム
22	C	万年自鳴鐘	東京都台東区上野公園7-20	03-5777-8600	国立科学博物館
23	C	「旧筑後川橋梁」(筑後川昇開橋)	福岡県大川市大字向島地先 佐賀県佐賀市諸富町大字為重地先	0944-87-9919	財団法人 筑後川昇開橋観光財団
24	D	機械学会黎明期の学術図書(機械学会誌創刊号, 機械工学術語集及び機械工学便覧)	東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館5階	03-5360-3500	一般社団法人 日本機械学会
25	D	東京帝国大学水力学及び水力機講義ノート (真野文二／井口在屋教授)	東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館5階	03-5360-3500	一般社団法人 日本機械学会
26	S	三居沢発電所関係機器・資料群	仙台市青葉区荒巻字三居沢16	022-261-5935	東北電力(株)三居沢電気百年館
27	S	三池港水圧式閘門と蒸気式浮クレーン	福岡県大牟田市新港町1	0944-57-3105	三池港物流(株)
28	C	円太郎バス(フォードTT型)	東京都千代田区神田須田町1-25	03-3251-8481	交通博物館
29	C	機械式通信機器群 (谷村株式会社新興製作所製)	岩手県花巻市大畑第9地割92-6	0198-26-4311	(株)新興製作所
30	C	自働算盤(機械式卓上計算機) パテント・ヤズ・アリスモメトール	福岡県北九州市小倉北区城内4-1	093-571-1505	北九州市立文学館
31	C	電機事業創業期の国産誘導電動機および 設計図面	茨城県日立市幸町3-1-1	0294-21-1111	(株)日立製作所　大平記念館
32	S	札幌市時計台の時計装置	札幌市中央区北1条西2丁目	011-231-0838	札幌市時計台
33	L	旧峯岸水車場	東京都三鷹市大沢6-10-15	0422-45-1151 (内線3315) (三鷹市教育委員会)	三鷹市教育委員会
34	C	親歯車ホブ盤HRS-500のマスターウォーム ホイール	静岡県沼津市大岡2068-3	055-926-5141	東芝機械(株)
35	C	ロコモビル(国内最古の自家用乗用自動車)	北海道北斗市当別4-3-1	0138-75-2894	男爵資料館
36	C	アロー号(現存最古の国産乗用自動車)	福岡県福岡市早良区百道浜3-1-1	092-845-5011	福岡市博物館
37	C	英国製50フィート転車台	静岡県榛原郡川根本町千頭1216-5	0547-59-2065	大井川鐵道(株)　千頭駅構内
38	L	としまえん「カルーセル エルドラド」	東京都練馬区向山3-25-1	03-3990-8800	としまえん
39	L	旧金毘羅大芝居(金丸座)の廻り舞台と旋回機構	香川県仲多度郡琴平町1241	0877-73-3846	旧金毘羅大芝居
40	C	たま電気自動車(E4S-47 I)	神奈川県横浜市西区高島1-1-1	045-523-5555	日産 グローバル本社ギャラリー
41	C	内燃機関式フォークリフト	滋賀県近江八幡市長光寺町578	0748-37-6700	TCM(株)
42	C	高砂荏原式ターボ冷凍機	神奈川県厚木市飯山3150	046-248-2752	高砂熱学工業(株)
43	C	自動改札機	京都市下京区塩小路通堀川東入 オムロン京都センタービル啓真館内	075-344-6092	オムロン コミュニケーションプラザ
44	L	青函連絡船及び可動橋	青森県青森市柳川一丁目112番15地先	017-735-8150	青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸
			北海道函館市若松町12番地先	0138-27-2500	函館市青函連絡船記念館摩周丸
45	C	幹線用電気機関車ED15形＊	茨城県ひたちなか市市毛1070	029-276-6636	(株)日立製作所　水戸事業所
46	C	岡谷蚕糸博物館の繰糸機群	長野県岡谷市本町4-1-39	0266-22-5854	市立岡谷蚕糸博物館
47	C	豊田式汽力織機	愛知県名古屋市西区則武新町4-1-35	052-551-6115	トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館
48	C	油圧ショベルUH03	茨城県土浦市神立町650	029-832-7150	日立建機(株) 土浦工場
49	C	ファスナーチェーンマシン(YKK-CM6)	富山県黒部市吉田200	0765-54-8181	YKKセンターパーク
50	C	多能式自動券売機	長野県佐久市田口5662	0267-82-7331	(株)高見沢サイバネティックス 長野第3工場(技術棟)

分類　**S**(Site)：歴史的景観を構成する機械遺産、**L**(Landmark)：機械を含む象徴的な建造物・構造物、
C(Collection)：保存・収集された機械、**D**(Documents)：歴史的意義のある機械関連文書類

1 Site
小菅修船場跡の曳揚げ装置

2 Landmark
熊本大学の旧機械実験工場と文化財工作機械群

3 Collection
足踏旋盤《明治8(1875)年伊藤嘉平治作》

4 Collection
陸用蒸気タービン

5 Collection
10A型ロータリエンジン

6 Collection
ホンダCVCCエンジン

7 Collection
民間航空機用FJR710ジェットエンジン

8 Collection
ヤンマー小形横形水冷ディーゼルエンジンHB形

9 Collection
あのくち式渦巻きポンプ

10 Collection
高周波発電機

11 Collection
東海道新幹線0系電動客車

12 Collection
230形233号タンク式蒸気機関車

13 Collection
旅客機YS11

14 Collection
カブ号F型(ホンダ自転車用補助エンジン)

15 Collection
麦わら帽子製造用環縫ミシン

16 Collection
無停止杼換式豊田自動織機(G型)第1号機

17 Collection
活版印刷機

18 Collection
コマツブルドーザーG40(小松1型均土機)

19 Collection
オリンパスガストロカメラGT−I

20 Collection
バックトン万能試験機

21 Collection
万能製図機械MUTOH『ドラフターMH-I』

22 Collection
万年自鳴鐘

23 Collection
「旧筑後川橋梁」(筑後川昇開橋)

24 Documents
機械学会黎明期の学術図書
(機械学会誌創刊号,機械工学術語集及び機械工学便覧)

25 Documents
東京帝国大学水力学及び水力機講義ノート
(真野文二／井口在屋教授)

26 Site
三居沢発電所関係機器・資料群

27 Site
三池港水圧式閘門と蒸気式浮クレーン

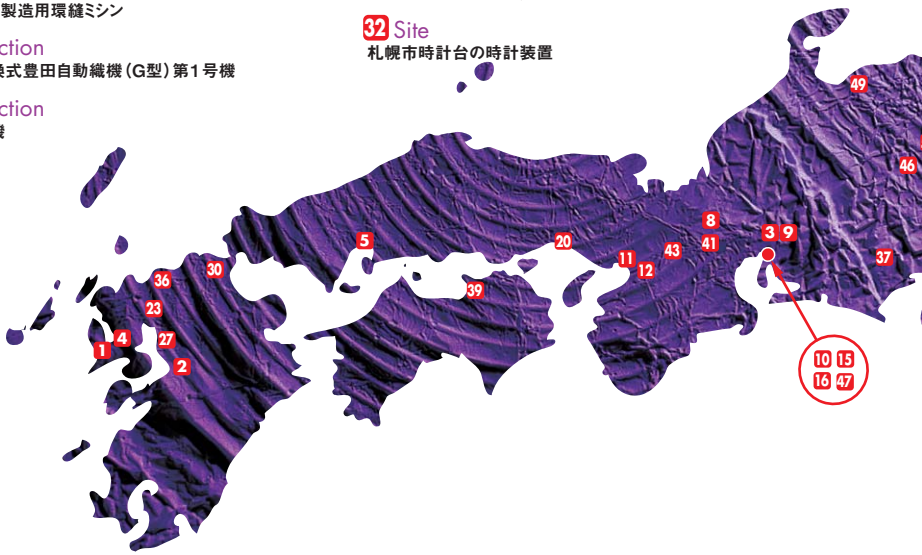
28 Collection
円太郎バス(フォードTT型)

29 Collection
機械式通信機器群(谷村株式会社新興製作所製)

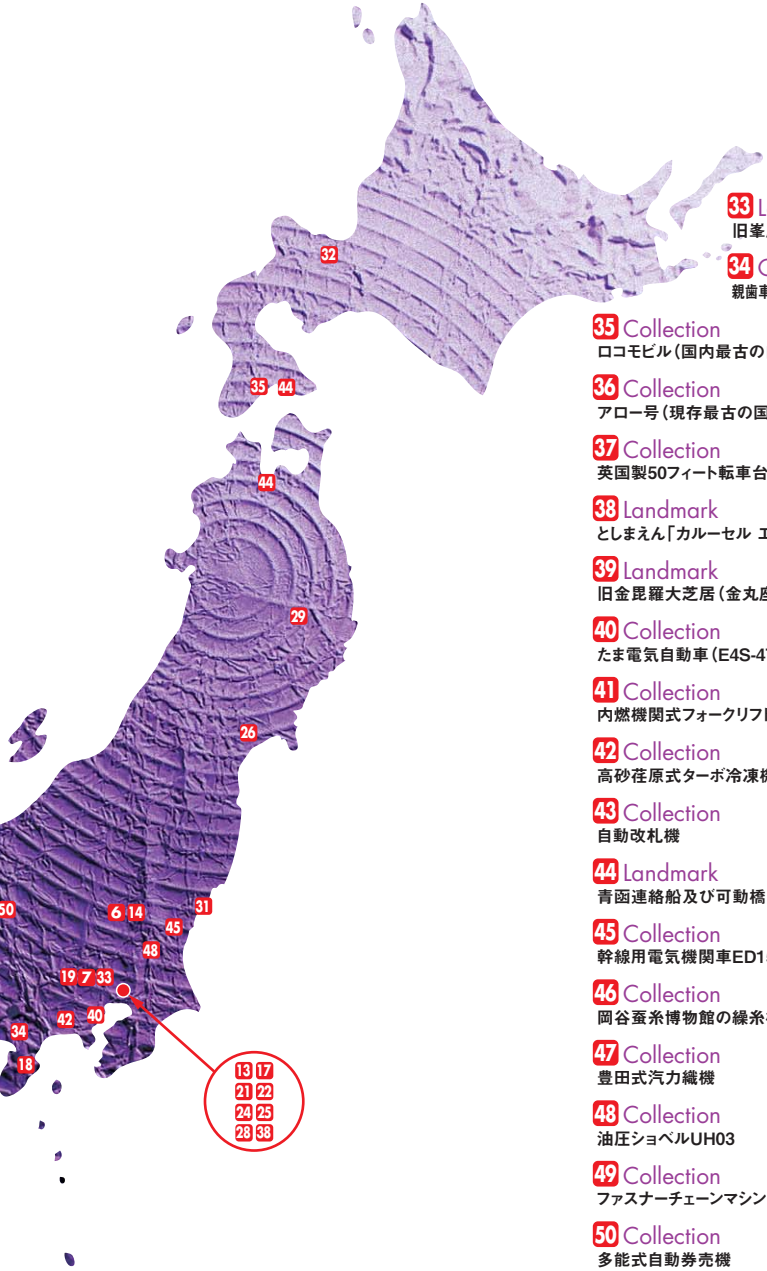
30 Collection
自働算盤(機械式卓上計算機)パテント・ヤズ・アリスモメトール

31 Collection
電機事業創業期の国産誘導電動機および設計図面

32 Site
札幌市時計台の時計装置



「機械遺産」(2007～2011)所在地地図



33 Landmark
旧峯岸水車場

34 Collection
親歯車ホブ盤HRS-500のマスターウォームホイール

35 Collection
ロコモビル(国内最古の自家用乗用自動車)

36 Collection
アロー号(現存最古の国産乗用自動車)

37 Collection
英国製50フィート転車台

38 Landmark
としまえん「カルーセル エルドラド」

39 Landmark
旧金毘羅大芝居(金丸座)の廻り舞台と旋回機構

40 Collection
たま電気自動車(E4S-47 I)

41 Collection
内燃機関式フォークリフト

42 Collection
高砂荏原式ターボ冷凍機

43 Collection
自動改札機

44 Landmark
青函連絡船及び可動橋

45 Collection
幹線用電気機関車ED15形

46 Collection
岡谷蚕糸博物館の繰糸機群

47 Collection
豊田式汽力織機

48 Collection
油圧ショベルUH03

49 Collection
ファスナーチェーンマシン(YKK-CM6)

50 Collection
多能式自動券売機

日本機械学会「機械遺産」の認定

日本機械学会では、2007年6月に創立110周年を迎え、その記念事業の一環として、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、日本国内の機械技術面で歴史的意義のある「機械遺産」(Mechanical Engineering Heritage)の認定を開始いたしました。

「機械遺産」の認定は、本会の行う重要な事業として、今後も継続致しますので、ぜひ一度現地を訪問され、「機械遺産」をご自身の目でご覧頂きたく、あわせて今後の「機械遺産」認定に対し、ご理解とご支援を重ねてお願い申し上げる次第です。

《日本機械学会「機械遺産」認定基準》

2006年3月22日 理事会承認
2008年5月13日 変更

●目　的

歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、主として機械技術に関わる歴史的遺産「機械遺産」(Mechanical Engineering Heritage)について日本機械学会が認定する。

●認定の指針

「機械遺産」とは機械技術の歴史を示す具体的な事物・資料であって、以下のいずれかに合致するものをいう。

(1) 機械技術の「発展史上」重要な成果を示すもの(工学的視点から)。
(2) 機械技術で「国民生活、文化、経済、社会、技術教育」に対して貢献したもの。

●各項目の内容

(1) 機械技術発展史上重要な成果を示すもの
〔機械技術で独創性または新規性のあるもの／品質または性能が優秀なもの／機械技術の進歩発達の過程において一時代を画したもの(改良発達)／新たな産業分野の創造に寄与したもの(波及効果のあったもの)／設計上特筆すべき事項のあったもの／日本のものづくりの心と技を端的に示すもの〕
(2) 機械技術で国民生活、文化・経済、社会、技術教育に対して貢献したもの
〔国民生活の発展、新たな生活様式の創出に顕著な貢献のあったもの／国民生活・文化に貢献したもの／地域の発展と活性化に貢献したもの／社会、文化と機械技術の関わりにおいて重要な事象を示すもの(最初、最古のもの)／動態保存で現在も活用されているもの／製造当初の姿を良くとどめているもの／意匠上特筆に値するもの／機械技術の継承を図る上で重要な教育的価値を有するもの〕

●認定基準

次の各項目のいずれかに該当するもので、広く機械技術・機械工学に寄与したもの。

(1) 対象物が、その独自性(例えば、はじめて開発されたもの、最初のもの、現在最古のもの、以前に広く使われた機械で使用されている最後のもの)によって区別されるもの。
(2) その他、機械技術史上の特徴を保有しているもの。
(3) 既に博物館などで記念物として認定されたものも含む。

●認定対象

認定対象としては原則として

(1) **Site**：歴史的景観を構成する機械遺産
(2) **Landmark**：機械を含む象徴的な建造物・構造物
(3) **Collection**：保存・収集された機械
(4) **Documents**：歴史的意義のある機械関連文書類

●対象となる時代

原則として産業革命以降の工業化がなされた時代を対象とするが、必要に応じて範囲を遡及的に拡大することを妨げない。また、年代の下限は設けない。

機械遺産監修委員会(2011年)

●委員長
長島　昭　慶應義塾大学　名誉教授
●委員
笠木　伸英　東京大学
小林　敏雄　財団法人 日本自動車研究所
斉藤　忍　株式会社 IHI
鈴木　一義　独立行政法人 国立科学博物館
柘植　綾夫　芝浦工業大学

技術と社会部門「機械遺産委員会」(2011年)

●委員長
池森　寛　西日本工業大学
●副委員長
小野寺英輝　岩手大学
●幹事
村田　良美　明治大学
●委員
石田　正治　愛知県立豊川工業高等学校
大久保英敏　玉川大学
緒方　正則　関西大学
門田　和雄　東京工業大学附属科学技術高等学校
黒田　孝春　木更津工業高等専門学校
福澤　清和　日本機械学会
星　朗　一関工業高等専門学校
吉田　敬介　九州大学

機械遺産 Mechanical Engineering Heritage

2011年 8月7日　発行
一般社団法人　日本機械学会
〒160-0016　東京都新宿区信濃町35番地 信濃町煉瓦館 5階
TEL:03-5360-3500(代表)　FAX:03-5360-3508
©2011　一般社団法人　日本機械学会

The Japan Society of Mechanical Engineers(JSME)
Shinanomachi-Rengakan Bldg.
Shinanomachi 35, Shinjuku-ku,
Tokyo 160-0016 Japan
TEL:+81-3-5360-3500,FAX:+81-3-5360-3508
URL:http://www.jsme.or.jp
©2011 by The Japan Society of Mechanical Engineers(JSME)